



## 校 区 探 検

### 燃料貯蔵トンネル

桜井市の西田さんと久しぶりに出会い、戦争末期につくられたという燃料貯蔵トンネルを探しに行きました。これは阿田峰飛行場が空襲にあっても大丈夫なように、飛行場とは違う場所に燃料を隠すためにつくられたトンネルです。

阿田峰飛行場のあったところから西へ約1.5Km離れた大谷地区に30年ほど前に行ったときは、いくつものトンネルが掘られていました。テクノパーク（工業団地）の造成により無くなってしまったと聞いていましたが、まだ残っているという情報もあって出かけ

ました。車を停めた所に地域の人が出たので尋ねると、「造成により無くなった」という返事。手がかりもなく、推測でこの辺りかと斜面を登るなどしましたが見つけることはできませんでした。サツマイモを地中に保存している作業をしていた女性に尋ねると、近くの古老なら知っているのではと教えていただきました。

そのお宅を訪ねると、快く迎えてくれ、その頃の様子のお話をしていただいたり、トンネル跡に連れていってくれたりしていただきました。30年前と違って、トンネルという形では残っておらず、上部が崩れて大きな溝というか、小さな堀のようになっていました。奥行き10m、幅2～3mぐらいでしょうか、コの字形になっていたトンネルであったことが分かりました。

次に、荒坂にあるトンネルを探しに行きました。ここも30年前に行ったきりで、大谷と同じように崩れているのではと思いつつ、車を走らせました。車を降りて山中に入りました。トンネルに行くまでの山中の道はしっかりしていて、意外に思いました。しばらく進んで左手を見つめると、ぽっかりと開いた穴が見えます。最初、大木が倒れてできた穴かなと思いましたが、貯蔵トンネルでした。以前に比べて入口あたりが崩れたようで、土で埋まってしまっていたために、記憶とは違う状況でした。しかし、トンネルはしっかり残っていました。

西田さんは、北宇智の空襲について、「その痕跡がどこにも残ってなく残念」と以前にお会いしたときに言っておられましたが、ようやく見つけることができました。ここは、強制連行された朝鮮人が掘ったトンネルであり、阿田峰飛行場の偵察にきた米軍戦闘機が学校や駅を襲撃したことに関係するトンネルです。戦争の悲惨さを伝える「声なき証言者」の存在を広め、平和を願う西田さんの行動に敬意を表しつつ、お別れしました。



荒坂の燃料貯蔵トンネル



米軍の検問所跡



大谷地区のトンネル跡



荒坂の貯蔵トンネル（手前が10mほど崩れて堀のようになっている）